

第9回「高知県新しい公共支援基金事業運営委員会」

開催日時：平成25年5月22日（水）13:30～16:00

場所：高知共済会館「藤」

会議次第

1. 開会
2. 平成24年度下半期の事業実績報告及び評価
3. その他
4. 閉会

議事録

（事務局）

ただいまから、第9回「高知県新しい公共支援基金事業運営委員会」を開催いたします。本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

また、先日は、「NPOと行政との協働モデル事業最終報告会」にもご出席いただき、ありがとうございます。併せてお礼申し上げます。

本日の議題は、平成24年度下半期の事業実績報告及び評価でございますので、よろしくお願いいたします。

なお、県では、透明性を高めながら事業実施することが要件となっており、運営委員会は原則公開となっています。会議の様子、議事録につきましても、委員のお名前を伏せたうえで県のホームページに掲載させていただきますので、予めご了承ください。

それでは、議事進行を上田委員長にお願いしたいと思います。

委員長、よろしくお願いいたします。

（委員長）

では、私の方で、議事進行していきます。委員のみなさん、ご協力よろしく申し上げます。

それでは早速、平成24年度下半期の事業実績報告及び評価について事務局から説明をお願いします。

（事務局）

それでは、事務局から説明させていただきます。まず最初に資料の説明ですが、今回の資料は通し番号を振るのが抜かっておりまして、申し訳ありません。資料ごとのページでご案内させていただきます。

資料1は、平成24年度下半期分の、県から運営委員会への事業実績報告です。資料2は、それを受けて運営委員会から県へ評価結果を報告していただくものです。こちらの資料は

元々の様式が、自由書式ですので、お手元の資料には項目しか記入しておりません。本日議論していただいた内容で事務局が作成し、後日、上田委員長に確認して評価結果とさせていただきます。この資料2も、資料1と併せまして国へ報告することになっておりますので、よろしくお願いいたします。

同様に、事業計画書も添付資料として国へ報告することになっておりますので、資料3としてお付けしています。

資料4は、専門家派遣研修の実施内容、資料5は、NPOと行政との協働モデル事業の内容です。この2つの資料は、下半期だけではなく、1年をとおした資料となっております。資料6は、3月に実施しました寄附募集支援事業「第2回ファントレヅィング・ジャパン in こうち」の参加者アンケートの集計結果となっております。最後につけています資料7は、新しい公共支援基金事業全体の決算見込みです。23年度と24年度は決算額を、25年度は予算額を記入しています。

それでは資料1をご覧ください。

まず、1. 新しい公共支援事業に関する都道府県の実績報告です。

「様式5-1を参照」としてしています。様式5-1は次のページ以降に添付しています。2ページをご覧ください。国の指定様式が、下半期の実績となっておりますので、24年度全体の実績ではなく、下半期分を抽出して記載しています。

1. 実施状況の(1) NPO活動ステップアップ支援事業～集合型研修～は、高知県ボランティア・NPOセンターさんへの委託事業として実施しました。主な実施状況は、開催した順に記載しています。名刺をつくろうセミナーでは、団体や活動の魅力が伝わる名刺、反応のある名刺づくりのコツについて、6団体・のべ8名に学んでいただきました。講演会「ふんばろう東日本プロジェクト」では、東日本大震災において、ITを活用し日本最大級の支援組織を作った講師による、支援の仕組みづくりを学んでいただきました。IT利活用学習会のためのリーダーズ研修会では、ネットの最新の動向やツールを学んでいただき人材育成につながる研修となりました。さらに、お料理を例えとして、プレゼンテーションの基本を学ぶプレゼンテーションセミナー「Let's プレゼンクッキング」の開催や情報発信の研修活動計算書の作成セミナーなど、6種類の研修でのべ66団体104人の参加がありました。参加団体からの評価については、その下にセミナーごとの一覧表を載せています。全体では「A：優れた成果が得られた」という評価が23団体で34.8%「B：一定の成果が得られた」という評価が20団体で30.3%となっております。

次に、NPO活動ステップアップ支援事業～専門家派遣による個別支援事業の実施状況です。資料4にまとめていますので、そちらをご覧ください。ほとんどの団体が、上半期、下半期と専門家派遣を受けていまして、年間を通した支援件数が21件、団体数は19団体です。うち、上半期から継続して支援している団体が13件で、下半期より支援を開始した団体が8件となっております。下半期における派遣実施回数は43回となり、下半期目標回数の25回を大きく上回り、24年度全体の派遣実施回数は、68回となっております。

右端に支援を受けた団体からの評価を載せていますが、「S：特に優れた成果が得られた」という評価と「A：優れた成果が得られた」という評価が、それぞれ6団体でSとAを併せた、つまり「優れた成果が得られた」以上の評価が63%を占めています。事業実施団体の、高知県ボランティア・NPOセンターさんからの自己評価は、集合型研修と併せまして資料1の7ページの一番上「Aの優れた成果が得られた」となっています。事業に関する報告につきましては、11ページから添付しています。また、支援を受けた各団体の自己評価を取りまとめたものを7ページ中段から一覧表にしています。それぞれの団体から提出された報告書は、22ページから添付していますので、後ほどご確認ください。

それでは、資料1の3ページに戻っていただきまして(3)NPO活動強化支援事業です。NPO法人高知県西部NPO支援ネットワークさんへの委託事業として実施しました。実施状況は、①組織経営等の相談対応が、設立相談の3件を含めて下半期で、25件となっています。②NPO等への研修事業は上田委員長を講師に、PDCAサイクルを実行し、年々の達成目標を含む事業計画とその点検・評価の方法を習得することにより、経営力の向上を目指す講座「NPO経営塾」を黒潮町で開催しました。また、公務員としての経験と知識を地域の中で活かす“公務員参加型地域おこし”を考える講座「地域に飛び出す公務員講座2012in高知県西部」を四万十市で開催し、参加した県職員からも、好評を得ています。地域の学習交流会では、バラエティに富んだセミナーを用意し、四万十市、四万十町で69人の参加者となっています。その他にも③NPOへの情報提供や、交流会の開催、④中間支援組織スタッフの研修など、人材育成にも取り組みました。事業実施団体の、NPO法人高知県西部NPO支援ネットワークさんによる自己評価は、7ページ上から2段目で、「B一定の成果が得られた」となっています。

提出いただいた報告書は、15ページから添付していますので、後ほどご確認ください。また、支援を受けた各団体の自己評価を取りまとめたものを10ページに一覧にしています。それぞれの団体から提出された報告書は、63ページから添付していますので、後ほどご確認ください。

それでは、4ページに戻っていただきまして、(4)NPOとの協働モデル事業ですが、この事業につきましては、先日最終報告会を行い、各団体から、取り組みの成果や課題について報告をいただきましたので、事務局からの説明は省略させていただきますが、各事業体から提出された自己評価の一覧は、10ページに、成果報告書は67ページ以降に添付していますので、こちらも後ほどご確認ください。

では、4ページに戻っていただいて(5)NPO寄附募集支援事業です。昨年に引き続き、県内の中間支援組織や主なNPO、企業も入ったファンドレイジング・ジャパンinこうち実行委員会に委託事業として実施していただきました。第2回となりました24年度は、3月2日に高知県立大学で開催し、参加者272名で県外からの参加もありました。

アンケート結果を次のページに載せています。各セッションごとの満足度です。全体で言

いますと、延べ144人のうち、「5の大変満足」と答えた方が58%の84人、「4の満足」と答えた方が40人。併せて124人86%の方から、「4満足」以上の評価をいただいています。また、昨年に引き続き「土佐のおきゃく」とのコラボレーションで、寄附付メニューの作成など、新しい形の寄附について考えるきっかけにもなりました。

詳しいアンケートの結果につきましては資料6として、添付しています。

次に(6)運営委員会の開催状況につきましては、第8回運営委員会を11月14日に開催させていただきました。内容につきましては、省略させていただきますが、24年度上半期の事業実績報告及び評価、24年度下半期の目標設定について審議を行っていただきました。また、引き続き、よろしくお願いいたします。

事業の実施状況につきましては以上です。

続きまして、2の成果目標の達成状況です。

左から評価項目、2年間の目標、平成23年度の実績、その右側に平成24年度の大きな枠が来ています。左から上半期実績、下半期目標、下半期実績、実績の合計です。右端は2年間の実績となっています。今日の評価は24年度の下半期ですので、下半期目標に対する下半期の実績をご覧ください。「ウのNPO法人の会計基準の導入率」が目標の70%に対して55.9%「エのNPO活動強化支援事業における研修参加NPO数のうち、団体数が目標の22団体に対し12団体、「オの寄附募集支援シンポジウムへの参加者数のうちNPO団体が目標50に対し27団体となっていますが、その他は、ほぼ目標をクリアしており、アのNPO活動ステップアップ支援事業への参加者NPO数や、イの派遣回数、エの活動強化支援事業の参加者や、寄附募集支援シンポジウムへの参加者は、目標を大きく上回っています。

次に6ページの全体評価です。

<NPO活動ステップアップ支援事業～集合型研修>は、昨年に引き続き、NPO等の運営及び活動基盤の強化を目的にのべ7講座を開催し、のべ66団体104名が参加しましたが、そのうち新規団体は38団体あり、下半期目標である9団体を大きく上回る結果となっています。NPOの組織運営力・広報力の強化を目的とした新しい切り口でのセミナーを開催したことで、参加したNPO団体からの満足度は高く、必要とされる事業となっています。

<専門家派遣による個別支援>では、個々の団体の成果としまして、ICT講師による支援で、新しいHPが完成した団体や、税理士さんの支援により、消費税など会計の処理方法を学んだ団体などがありました。支援団体からは、専門家の細やかな支援に対する感謝の声も多く、今後も期待される事業となりました。

<NPO活動強化支援事業>は、県西部における、研修会や交流会の開催、情報提供に加え電話等での相談対応の取組をしていただきましたが、その取組は画期的であり、これまでの中央集中の課題解決につながるものと考えています。また、今回の事業を通して県西部地域のNPO間のネットワークの確立や、中間支援組織の人材育成に大きな前進が図

られたと考えています。

<NPOとの協働モデル事業>は、中間報告会（参加者67名）に続き、最終報告会（参加者58名）を開催し、事業者同士が「NPOと行政との協働」をどのように取り組んでいるか共有し、理解を深めるとともに、県庁内の各課や市町村、NPOにも参加してもらったことにより、「協働による地域課題解決」への理解を深めることができたと感じています。また、事業終了後の事業展開や、他地域への波及など、課題についても共有できたと考えています。

<NPO寄附募集支援事業>は、NPO等の資金調達の取組や、企業による社会貢献につながるマーケティング戦略の取組など、さまざまな成功分野を知る中からファンドレイジングとは何か、また、ファンドレイジングを実践するために必要なことは何かといったことを関係者が理解し、「ファンドレイジング」の機運が高まったのではないかと考えています。

<総括>としましては、NPOを取り巻く環境が大きく変化した2年間に、重点的にNPO支援が出来たことは、大変意義があり、法改正による変化をカバーする「法改正セミナー」や「会計基準セミナー」、「認定NPO法人セミナー」や個々のNPOのニーズに合わせた専門家の派遣など、今後につながる取組ができました。また、中間支援組織の強化につながる事業もあり、NPO間だけでなく、NPOと中間支援組織、行政とのネットワーク確立にもつながったと考えています。

全体事業を通じて、参加者の自己評価も高く、県としましては、平成24年度下半期の新しい公共支援基金事業全体の評価ランクを「A. 優れた成果が得られた」とさせていただいております。

1ページに戻りまして、5. の運営委員会の決定に関する実施要領第5の4（9）に基づく報告ですが、これは、運営委員会の決定等に反する判断がなされた場合は、その理由を明示し、国に報告すること、となっているものです。その件に関しては、該当ございません。

6. の広域的な取組及び内部組織間の連携の状況についても、特に県庁内で総括的な窓口を新たに設ける、といった取組はしておりませんので、該当なし、としております。事務局から、運営委員会への事業実績報告につきましては以上です。

（委員長）

事務局から、下半期の取組、事業の実施状況など実績報告をいただきました。委員のみなさん、ご質問等ございませんでしょうか？

関係者の方がおられますので、少し補足等もいただければと思います。

（委員）

さきほど報告いただいたとおりですので、事業を実施したセンターとしての感想という

ことで申し上げます。

今回、下半期の活動基盤事業として多かったのはセミナー系の事業でしたが、いくつか切り口を変えて、公報であるとか仕組み作りや活動計算書とかのセミナーもやってきました。実務系以外の研修というのが、なかなか人が集まっていない。関心が弱かったのか、私たちどものPR不足も含めて参加者が少ない状況がありました。

しかし逆に活動計算書とか法律関係、あるいは実務関係につながる研修についてはニーズが高く、たくさんの方に参加していただいている傾向がありました。

今回、新しい公共を通じてNPOのニーズというのが、だいたいこの辺りにあるのかなと実感できた。

ファンドレイジングについては昨年に比べて若干参加人数が減っています。

しかし参加した方の意識が高まってきていることなんかは、実行委員はみなさん感じ取っていますし、いろんなキッカケや種が出てきているなどということもあるので、そのあたりの成果は非常に良かったと、これから大きく期待できるのではないかと思います。

とにかく1年間半、バタバタとやってしまったので、やってみて「こういうところは上手いかなかったな」ということも見えてきているところもあります。

以上です。

(委員)

西部ネットワークですが、1年間事業をやってきて、組織全体として取り組めなかったこと、常駐で人が配置できないという、人的な弱さが事業を運営していくうえで支障があった。

課題を理事が受け止めて、できるところはやっていくということで前向きに取り組めて一定の成果は出たと思います。

ただNPO間でのネットワークの確立というところでは、まだまだ十分ではないと思いますが、この事業をして行政とNPOの協働が大事という位置づけが強くなって来たんじゃないかと思います。

特に公務員を対象にした研修では、(行政とNPOとが)ひとつのテーブル中で、地域の課題を考えて行こうという研修でした。

NPO経営塾では上田先生にお願いして実施しましたが、まだまだ参加団体のスキルの問題もあって25年度も含めてこれからの課題であると感じました。

NPOセンターに色々相談しながら事業運営し、一定の成果が出たと思います。

(委員長)

はい、ありがとうございます。

その他、細かい点で質問ございませんか？

(委員長)

会計基準と導入率がなかなか増えない理由は？

(事務局)

会計基準につきましては、どうしても入れないといけないということではなかったの
県としましても、あまりPRをしてなかった状況があります。

ただ、研修を受けた団体さんは、「自分たちの活動を表現しやすく変わる基準になるんだな」
ということを理解していただいて、少しずつ会計基準を導入されています。

(委員)

PRは行き届いていたと思います。

まず苦手意識が先行してしまっ。誰がするということからなかなか進めなかったの
が現実です。でも今は一番の大きな課題として掲げましたので、すぐ取り組もうと思いま
す。

(委員)

うちも24年度の決算書からやるつもりだったんですけど。

結局出来なかったのは高知市から指定管理料をいただいてまして、高知市の予算の作り方
とNPOの決算のやり方が全然違いまして、そこの整合性をどのようにしていったら
いいのかなと悩んでいるところです。

(委員長)

なんとなく課題がみえましたね。

さまざまなお金が出てくる出所とNPOの新しい会計基準との間に相違があるとい
う・・・これはNPOの責任だけでもなさそうですね。

課題が見えたことは良かったんじゃないですか。

(委員)

高知市の担当の方には（会計基準を）見せまして、考えていただいていますので、もし
かしたら行政側が変わるかもしれません。

(委員長)

そういうことが起きて、制度とかが統一され、うまくいくかもしれませんね。

今更ながら質問していいでしょうか？

5 ページ（成果目標の達成状況）のオのところの2年間の目標が141団体って何でした
かね？

(事務局)

24年度の目標を50団体としました。その時点で23年度の実績が91団体でしたので、合計141団体を2年間の目標としたものです。

(委員長)

成果目標の達成状況のキのところ、情報開示の実施率が100%でない理由は？

(事務局)

全ての団体に情報開示を行っていただく予定ですが、事業実施団体の3~5団から、提出が遅れている状況です。最終的には100%になると思います。

(委員長)

何か他にありませんでしょうか？なければ本題に入りたいと思います。次の案件、資料2に基づく下半期の評価に対する意見ををお願いします。

意見を自由に出していただいて、それを事務局で取りまとめて最終ご確認いただく手順で評価をしてみたいと思います。

まず1のNPO活動ステップアップ支援事業についての評価です。

県から委員会へ報告する評価は、さきほど、全体評価のところでも示していただきました。もう一度確認しますと集合型研修、「昨年に引き続きNPO等の運営及び活動基盤の強化を目的ののべ7講座を開催した。のべ66団体104名が参加したが、そのうち新規団体は38団体あり、下半期目標である9団体を大きく上回る結果となった。

NPOの組織運営力・広報力の強化を目的とした新しい切り口でのセミナーを開催したことで、参加したNPO団体からも満足度は高く、必要とされる事業となった。」という評価で示されています。これに、とらわれることなくこの委員会として評価ができますので。皆さんのご意見を聞きたいと思います。

事業に関係のある委員さんはちょっと言いにくいかもしれませんが・・・

資料1の12ページ13ページに、一応「優れた成果が得られた」という評価でまとめておられます。

(委員)

よろしいですか？

ここの評価の場合に、ボランティアNPOセンターさんは「A」の自己評価、西部さんは「B」という評価ですが、ここの評価で、「優れた成果が得られた」と「一定の成果が得られた」の判断ですが、西部さんの「一定の成果が得られた」というのは数的、金額的、量的そういったところでしょうか？

「優れた成果」というのは特段どっかに優れたところがあったということだと思うんですけど、西部さんの「B」という評価ってというのは、結構辛口なのか、数的なのか、金額的なのか、量的なのか、お聞きしたいです。

(委員)

事業ごとにバラツキがあったということで、ちょっと「A」の評価には遠いのかなということなんです。

具体的には、経営塾の数なんですけど、数的には遜色ないと思うんですけど、やはり団体が全講座受けていなかったり、という中身の問題等があります。情報提供についても、偏った情報提供になってしまったと思っています。

ITツールを使った情報提供ができていませんでした。ペーパーだけによるものでしたので偏ってしまった、そんなところもあってですね。この事業全体が、一定の線を越えていないというところで、こういう評価をしました。

(委員長)

これは3番目項目の活動強化支援事業でして、まあステップアップ支援事業に関しては特段ご意見がなければ活動強化支援事業に移っていいかなと思いますよろしいですか？

(委員)

ステップアップ支援事業の集合型や専門家派遣の受講された方の自己評価を見たら「S」も結構多くて「D」はなくて「C」が1人ですので、平均したら「A」と「S」の間ぐらいの感じだと思いますので、これは県のほうで作った案、ラインに十分合致しているなど感じたところです。

(委員長)

これ、ちょっと手間がかかるんですけど54321に点数化して平均出すと8.なんぼやと思うんです。そうすると「S」とは言えないけど「A」の上のほうかなと思うんです。

最終のところまで可能であれば点数化してみれば分かりやすいと思うんです。

必ずしもそれで表現できていると思わないけど、ひとつの方法ですから、もし9点以上なら「S」と言ってもいいし、ファンドレイジングジャパンなんか、それをやるとかなり点数高いと思うんですけど。

その他ございませんか？

「C」になっている評価もありますが、分析はありますか？

(委員)

そうですね。研修のチラシを見てきたときの期待感と実際の中身が違っていたという方

が「C」が多かったと思います。たとえば「ふんばろう東日本プロジェクト」だと災害のことを学べるかと思って来ると災害の話もしますが、情報発信の仕組み作りの方を中心に話しをするので災害の事が学べなかったということもあり、「C」の評価が多かったと思います。

(委員長)

ありがとうございます。

専門家派遣について何かございませんか？

どちらかと言うと専門家派遣のほうがニーズ高かったと思いますね。

それでは改めて、NPO 活動強化支援事業について、ひとつは評価が厳し過ぎるということですが

(委員)

1割以上のNPOが経営塾に継続して参加ほしかったが、なかなかできなかった。

情報についても、HPやブログなどで情報発信できたら良いとキッカケを作ったけど情報提供に限界があった。そういうところが、この事業は弱かったと思います。

事務局というか職員がいないということで、動きが取りにくく、開催場所も限定されていたということもあって、西部エリアのすべてにあたって基盤整備を整える環境が育たなかったということでこういう評価となりました。

(委員長)

私も、改めて西部地域に行って思いました。

冬になって雪が降ると、「帰れなくなるので行けません」ということが起こりました。

地域というか環境を含めた対策を考えないと、高知市内と同じような雰囲気、「意欲があれば来るだろう、来ない人は意欲がない」とは取れないと思いました。

どこかで学習会をして参加しやすくするとか、地域独自の課題がある、それについては解決すべきであると思いました。

(委員長)

次はNPOと協働モデル事業について意見を頂きたいと思います。

(委員)

中間報告会に比べ、すべての団体が、プレゼンがすごく上手になって、事業がこんなに行われたのかと改めて聞いたんですけども、あの場ではお金の流れが全然わからないですから、その辺では、今年度から予算がなくなり、継続が明確な所と行政に期待しているところがあったので、そこはどうなるのかなと思いました。

(委員)

最終報告を聞いて、どの事業もこれから先に仕組みができて、これから実施をするところや、新たな地域で事業をしたり、これから先も繋がっていく確認ができたことは良かった。ただ、行政の方が年度が変わり担当が変わるとどう繋がっていくかが心配です。

(委員)

協働って難しいなあって改めて思いました。何を思って協働ってするんだろうって、いつもいつも自問自答しているような感じなんですけど、モデル事業なので、先ほども言われたように、来年度以降どの事業が残って発展してくのか、やはり2年間大きなお金をつぎ込んでいるので、見守って行くというか、そういうことができれば良いなと思っています。

(委員)

モデル事業を通じて、NPOと行政との協働がスタートに立ったのかなと、これからもう少し足並みを揃えるような形で行政側もNPOに沿っていくように、NPOも行政側と足並みを揃えるような形でスタートラインに立ったのかなという印象を受けました。

これから先、地域でどういう風な形で進んでいけるかなというのが少し不安ですが、行政のほうもNPOの事を勉強していこうかなという職員も少しずつ増えてきているのではないかと思います。

行政職員の立場として、少し不安があります。担当になったものの、考え方とか、担当になったものの、気持ち次第で今は微妙に違っていたりとか、力の入れ方が変わったりとかすることがあると思われまので、そういう事がないように、誰が担当になっても今までやってきたことは、こういうふうな事でやりましょうという引き継ぎができるようにこれからは行政の立場としてやっていきたいと思いました。

(委員)

私の感じた事は、中間報告の時には、できている団体と、まだまだ出来ていない団体との落差があったにもかかわらず、最終報告会では、各団体が予算以上の成果を上げていたと思います。

協働の面では、それぞれの地区によって課題があったかもしれませんが、やはり協働の底上げと言うか、そういうところできて良かったというふうに思います。

それと砂浜美術館さんは独自に活動されておられて、実際、スキームもできて、システムもできたけど、売上が上がってなかったと、ただこれからの課題がそういったところに出てくるということで、やはり地域性、僻地というか、そこをうまくどういう風にもっていくかというようなところが、なかなか難しい、あと商品開発、販路拡大、これが一番

の課題かと思いました。

(委員)

最終報告会は出席できなかったんですけど、中間報告の時に唯一大丈夫かなと思った団体が、委員長の話しによると成果が上がったということで、安心しております。

企業の人間として、企業が NPO を評価するときに何が一番大事かという継続性です。そこを我々は 1 番見ます。継続性がどうなのかっていうのを評価してうえで、継続しつつ地域にどう溶け込んでいくか、地域と共にどう活動していくかというのが我々の観点から言うところです、1 番評価するところです。

ちょっと辛めの事を言うんですけど、今回は資金ありきの事業であるというのは、これは否めないことと思うんですが、今後、支援の資金が無くなった時に、行政の方と NPO の方と、また企業、市民と一緒に、どういうふうに今後、継続していくかというのを見守っていききたいと思います。

(委員)

リハビリキッチン事業については専門家派遣事業で協働コーディネーターとして 3 回 4 回訪問してまして、もともと NPO と行政の協働で始まったところに、地元の社協さんを絡ませてリハビリキッチンが残した種を、今後、地域に残していく基盤作りまで、やってみようと話しができたのは個人的にも良かったと思います。

お金がなくなったら縁の切れ目と、それはしたくないなということで、リハビリキッチンモデル事業でいけば、本山町に「きちんと予算を取ってください」と話しをずっとしながら、NPO も全部を行政に頼るのではなく、助成金の申請のお手伝いもしながら、なんとか地域に仕組みを残せるようにやっていきたいと思っています。

協働の温度差というのはいろいろあって、どれが正解か全然わからずに話しを聞いていましたが、継続性ということで、この事業が終わって誰がどのように見守っていくかも含めて考えていかなければならないと思いました。

(委員)

最終報告会では、モデル事業終了後の事業展開を聞いていましたが、事業終了後、町で予算が組まれたり、地元が資金を出し合うような仕組みが出来つつあるなど、自分が思っていた以上に継続に繋がりそうだと思います。

(委員長)

はい、どうもありがとうございます。

みなさんが言われたとおりだと思います。

この取組みに参加したプロジェクトを、今後、誰が、どのように見守っていくのが課

題だと思います。

ただ、悲観的な考えはなく、事業は継続するのではないかと思います。理由は、ひとつは課題の設定にありました。

地域が取り組まざる得ない課題を持ってきました。

例えば、土佐清水市は、単独ではできない事業だと思います。奥四万十や本山町・大川村も一緒です。今後も支援を切らないようにしなければならないと思います。

では、次にいきたいと思います。

寄附募集支援事業です。

(委員)

当日は寄附市場しか参加してないですけど、新しい寄附の方法として、待つのでなくて色んな仕組みを研究する取組みが芽生えてきていると思います。

(委員長)

他に事業に参加されていた方いますか？

どのように評価できるか、ご意見を頂ければ

(委員)

1年目より2年目、人数が減りましたが、内容では良かったと思います。

人数では測れないものがあるけど、評価というのはそうなるのかなと思いました。

企業市民セミナーを開催させていただきまして、その中で企業とNPOのマッチングが生まれつつあると思いますので、それを成果にしていきたいと思っています。

(委員)

私は実行委員という立場で参加しましたが、実行委員会も、第1回が大成功でしたので、第2回も継続していこうと勢いもありましたし、実際当日のファンレイジング・ジャパンの場所も良かったし、方針もバラエティーに富んで、ファンレイジングの形が多様性もあって良かったと思います。

(委員)

今年、初めて参加したんですが、講師陣が凄くて、よく集めたなと思いました。

それと、県外の方の参加が多いのが印象に残りました。大阪や名古屋から、家族や友達との参加で「とても楽しみに来ました」という話を聞かせていただきました。

(委員長)

ありがとうございました。

数値目標は達成したので、どうゆう効果が高知県のNPOにあったかというところを、どう評価するかが重要だと思います。

機運が高まったと表現されておりましたけど、ファンドレイジングを積極的に取り組む機運が高まってきたのかなと思います。

次に、総括ですが。

評価では「優れた成果を得られた」となっておりますが、委員会として、どう評価していくかということですが、ご意見をいただければいいと思いますが。

(委員)

事業を、通して感じたことですが、中間支援組織の重要性が明確になったと思います。特に、NPOセンターと高知市民会議の中間支援組織がしっかりしているので、この事業が円滑にできたと思うし、それに関わるNPOの強化にもつながったと思います。

西部のように、広域でありながら、民・民でやっていく組織は、はたして役に立つかと言えば、あまり役立たないことも見えますので。逆に言えば、そういうものをどうしていくか、東部とか西部とか遠隔地の中間支援組織をどうしていくか、課題が見つかったと思います。

(委員長)

ありがとうございました。

最終報告書に中間支援組織の課題を入れたらいいと思います。

その他、ございませんでしょうか

(委員)

協働モデル事業では、かなりの成果を上げたと思いますので、評価は「S」でいいと思います。

あと各団体の評価も「S」に近い評価でいいと思います。

課題として、今後NPOが自分たちの活動の中でいかに予算を取るかが課題だと思います。

(委員長)

ありがとうございます。。

中間ではおとなく、控え目な堅実な評価をしましたが、最終的には「S」で出したいと思うんです。

これだけ成果がありました、でももっと前進するにはこんな課題がありますという形で国に返したいと思います。

(委員)

異議なし

(委員長)

他に、何かございませんでしょうか？

ないようでしたら

事務局にお返しします。

(事務局)

ありがとうございました。

皆様からいただきましたご意見を、事務局でまとめ、最終的に委員長にご確認いただいたものを内閣府へ報告させていただきます。

なお、運営委員会の承認事項等につきましては、委員会から県へ報告をいただくことになっておりますので、本日の検討、承認内容等につきまして、委員会を代表して委員長に署名をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

また、次回の運営委員会は、9月末を目途に、事業の監査等の報告を主な議題とさせていただきます。最後の運営委員会になろうかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第9回高知県新しい公共支援基金事業運営委員会を終了いたします。

ご協力ありがとうございました。